

特定非営利活動法人 多文化センターまんまるあかし

～外国人住民を情報弱者にしないための地域密着型多言語情報発信事業～

理事長 久保 美和様
副理事長 櫻江 茂樹様

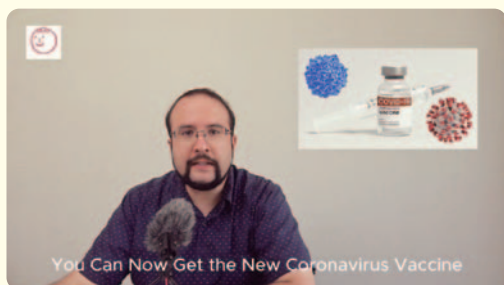
まんまるあかしでは、明石市内で国籍や文化の違いを壁にせず、全ての人が支え合い、共に生きる“まあるい”（丸い）未来を目指し、活動をしています。「育てる・支える・つなげる・つなぐ」を活動指針とし、日本語学習支援教室や外国人講師の派遣、外国人ママの会、料理教室、国際交流のイベント開催などを行っています。

今回の助成金を活用して、明石市が発行する「広報あかし」を多言語（英語・中国語・やさしい日本語等）に訳し、必要な情報を適時に受け取れるよう、紙媒体とインターネットで情報発信をしています。

まずは明石市が発行している「広報あかし」から記事を選定します。記事の内容は、生活に必要なこと（新型コロナワクチン接種の予約方法や商品券の利用の仕方など）やイベント情報です。その記事の内容をボランティア会議で「やさしい日本語」に訳します。その後、「やさしい日本語」を各国の外国人翻訳者に訳してもらい、校正し発信しています。発信することにより、外国人の方が地域の情報を正しく把握することができ、住みよい地域社会になると考えています。まんまるあかしのサイトやSNSの文字による情報は月に2回更新し、動画による発信もYouTubeなどで随時行っています。



紙媒体「広報あかし」
やさしい日本語



YouTubeチャンネル配信 英語版

外国人の方にとって住みよい地域社会になることを強く願い、取り組む会議

ボランティア会議では、「やさしい日本語」への翻訳、前回発信した情報の反省会や、「やさしい日本語」の養成講座、ボランティアメンバーとの意見交換を行っています。「やさしい日本語」支援スタッフを公募したところ、5名の方が引き受けてくれました。スタッフのうち4名は日本語教師や日本語学習支援教室のスタッフで、日本語を教えた経験のある方々です。

ボランティアをしようと思ったきっかけは、地域に今後、「やさしい日本語」が必要だと感じた、今よりもさらに知りたい、学びたい、やってみたいと思った、海外赴任の際の困った経験を活かしたいなどです。メンバーはそれぞれが強い意志を持ち、毎回真剣に取り組んでいます。「やさしい日本語」への翻訳は容易ではなく、「自分の話すことを相手が理解できているかどうか、感じ取りながら話せる」ことが大切です。会議でスタッフは、わかりにくかったところや伝わりにくかったところはなかったかなどをお互いに確認し合い、次の記事に活かしています。読む方にとって必要で理解しやすい記事になるよう、常に最善を尽くしています。



利用者に寄り添いながら、今後も地道にコツコツと

私たちはまだ、実際に記事を見た方にお会いしたことがなく、利用者の声をどのようにして集めたらよいのか、課題となっています。まんまるあかしの利用者に団体のホームページへの案内を促していますが、閲覧してくれる方は少ないのが現状です。そこで今回、団体の公式LINEを作成し、日本語学習支援教室や料理教室に通う方などにお友達登録をもらい、「広報あかし」やイベント情報などを個別にプッシュ型で発信することを始めました。それにより、当事者に確実に届けることができ、また本当に必要な情報は何かを、私たちが直に知ることができるきっかけになると考えています。

外国人の方が、理解できる言語で福祉情報や災害など必要な情報を得ることにより、精神面での安定と、地域への社会参加や共に生きることもつながります。将来的には地域の外国人の方にもこのプロジェクトに加わってもらい、より有用な情報を発信できるようにすることを考えています。このプロジェクトを行うことにより、彼らの心の安定や住みよい社会になるよう、今後も活動を継続していきます。

財団スタッフ コメント

ボランティア会議では、地域に住む外国人の方が知りたい情報は何か、また暮らしやすい社会になるためにはどうしたらよいか熱心に考え活動されていました。このプロジェクトを地道に継続して行えば、支援を必要としている人に適切につなげていくことができるのではないかと感じます。

M.Y.S Kobe (メイクユースマイル神戸)

～手話パフォーマンス「虹色スマイル」で世界を笑顔に!～

代表 中村 美智留様

M.Y.S Kobe(メイクユースマイル神戸)は、2016年から2022年にかけて、「ユニバーサルファッションショー」を開催してきました。昨年11月、ショーのエンディングで行った手話歌から、手話パフォーマンスグループ「虹色スマイル」が誕生しました。

様々な立場の違いを超えて お互いを認め合い支え合う

「虹色スマイル」では、障がいの有無に関係なく、子ども・大人・車いすユーザーなど、様々なメンバーが、同じステージ上で自分を表現します。音楽を楽しみながら、手話だけではなく思い思いのパフォーマンスをすることで、聴覚障がい者にはもちろん、その場にいる人たちに、音楽を表現することや、共生社会の楽しさを伝えるプロジェクトです。手話は、聴覚障がい者だけでなく、様々な方に気持ちをしっかりと伝えることができます。

今回の助成金はイベント出演のために使用しています。篠山での音楽祭、神戸まつりや地域の夏祭りを経て、今年度4回目のイベント出演となった「うみかぜ音楽祭」は、17名で参加しました。「虹色スマイル」のメンバー、「ユニバーサルファッションショー」の車いすユーザーモデル、また、月1回、コープ西神の組合員集会室で開いている居場所「みんなでスマイル」の子どもたちです。

毎月、「みんなでスマイル」の活動後に、1時間ほど手話の練習を行ってきました。完璧ではありませんが、3つのグループのメンバーが一丸となって楽しんでもほしいという思いで行っています。



事故で障がいを負った車いすユーザーの男性は、理学療法士からの紹介で「ユニバーサルファッションショー」のメンバーとなり、「虹色スマイル」の活動にも参加するようになりました。練習で子どもや、様々な方と接したり、多くの人の前でパフォーマンスすることで、好きな歌「上を向いて歩こう」を歌うようになったり、手を動かすようになったりと、体や気持ちにも変化が表れてきました。ご家族によると、「体温調節が難しく熱を出すこともしばしばあるが、イベントの時は不思議と熱を出さず参加できている」とのことです。この活動が彼の楽しみや励みになっているのではないかと感じています。



楽器の演奏も
メンバーが行いました



観客に手話を教えるコーナーもありました



他の出演団体とコラボレーション

神戸から全国へ 共生社会の楽しさ豊かさを 子どもたちに伝える

障がいの有無に関わらず、子どもも大人も同じパフォーマーとして楽しく表現することで、お互いが助け合い認め合う。そんな共生社会の楽しさや素晴らしさを、皆で体感し合い、伝えるという活動は、子どもたちの未来のために役に立つと信じています。コープこうべとのつながりや、SNSでの広報、メディアでも取り上げられるなど、多くの方に活動を知っていただける機会も増えていきます。今後も、神戸から全国のステージへ、笑顔の輪を広げていきます。

財団スタッフ コメント

参加メンバーが楽しんでパフォーマンスしていることが伝わる、観客も元気になることができるステージでした。様々な立場の方が、同じ舞台に立ち表現することで伝えられるものは、大変大きいと感じました。また当日、急遽、他の出演団体に声をかけ、ステージで一緒に歌ってもらうなど、周囲の心を動かし、取り込む行動力も素晴らしく、これからも活動が広がっていくことを期待しています。

一般社団法人 belle vie

～弧(コ)と弧(コ)がつながる「cot cot(コトコト)」～

代表理事 大谷 利恵様

東灘区を中心に、こころの不調や病気のある方が利用できる訪問看護ステーション「toc toc」を運営しています。地域で暮らす人々に対し、メンタルヘルスの維持・向上と障がいの有無や立場に関わらず、自分らしく生きることができるよう支援する活動を行っています。

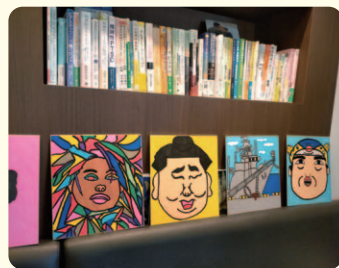
いつまでも居たくなる 明るい素敵なサロン

精神科訪問看護サービス(※1)の有無に関わらず、地域の中でメンタルヘルスの問題や悩み、生きづらさを抱えた方々や家族、友人などが気軽にフラッと来られるサロン、「cot cot(コトコト)」を毎月第4日曜日に開催しています。サロンは、飲み物付きで1回200円、参加者は、クチコミや精神科訪問看護サービスを受けている方々で、20代から50～60代までの幅広い世代の方が訪れます。皆さん初めは個々に来られますが、他のイベントやサロンで繋がっているなど、顔見知りの方が多く参加します。初めての参加者には、サロンのLINEグループがあることを紹介し、仲間を募っています。登録された方は、LINEチャットでイベント等の情報共有や参加者の間でプライベートな会話を楽しんでいます。

(※1) 精神疾患を抱える方や精神的な理由でサポートが必要な方の自宅を訪問し看護を提供する制度

サロンでの過ごし方は、世間話、病気のこと、おすすめ書籍の紹介、イベントの情報交換などです。こちらが何かを提供するのではなく、参加者と一緒につくる場にしています。初対面の方同士でも、話をする中で興味のあることが一緒などで意気投合する方が多く、つながるきっかけの場となっています。

自身が抱えている問題や悩みは解決されなくても、他人と語り合うことで孤独になることは軽減できるのではないかと考えています。サロン内には福祉の制度やイベント情報が書かれたパンフレット、書籍などを設置し、制度を知らず上手く支援を受けられない方への情報提供も行っています。



近隣の事業所の方の作品。
サロン内は明るくて素敵な空間

す。このサロンを入り口として、必要なサービスの利用や地域社会への新たな参加につながることを期待できます。

サロンには、保健師・看護師の資格を持つスタッフが常勤しています。病気のことを専門的な用語等を使って諭したりするのではなく、対等な関係で自由に過ごせる場を提供しています。また、精神科訪問看護サービスを使用した際に、こちらから声をかけるなどして、参加を強要するのではなく、あくまでも自分の意志で来てもらっています。



サロン内は楽しそうな笑い声であふれています

2か月に1回は、ワークショップを開催する予定にしています。8月には、近隣の作業所のスタッフの方を招き、革製品のアクセサリ作りを開催しました。今後、美容や芸術(パステルアート)など病気とは関係なく、誰もが楽しめるイベントを企画したいと考えています。



地域で暮らす人にとって、つながる場、 生きがいとなる場所でありたい

精神科訪問看護サービスを受けるには、精神科の主治医の指示が必要です。しかし、制度を知らず上手く支援を受けられない方、障がいを受け入れられずサービスの利用を拒否する方など、制度の狭間で孤独に過ごしている方が少なくありません。また、サービスの利用者の中には、引きこもりがちで地域とのつながりが薄い方がおられます。

このような多様な立場で孤独になりやすい方々が、このサロンで人やサービス、コミュニティなど何かとつながって帰ることができる、居ごこちのよい居場所、つながる場の提供をこれからも目指していきます。

今後は東灘区を中心にさらに広報活動を行い、地域の団体とのつながりを広げ、活動の場や回数を増やして、継続・発展していきたいと考えています。

財団スタッフ コメント

自由に過ごせる場、居ごこちの良い場所がコンセプトで、参加者の方は笑顔で明るく、スタッフも友達のように接する姿が印象的でした。今後も地域の中で、様々な問題や悩みを抱えた方がこのサロンを利用することにより、人とつながり、また適切な支援へとつながっていくことを期待しています。